

平成26年度 五泉市社会科部 活動報告

部長 立川 徹也

1 活動のねらい

- ・学習指導要領の趣旨・内容を踏まえ、授業研究を進める。
- ・社会科に関する地域素材を探り、その教材化を図る。

2 活動内容

(1) 授業研究(6月)

- ① 単元名 「水産業のさかんな地域をたずねて」 橋田小学校 5年 加藤 麻理子教諭
- ② 協議会の概要

「水揚げ量の多い漁港が関東や東北の太平洋沿岸に多いのはなぜか」という疑問に対して、児童が予想を話し合う場面について主に協議が行われた。児童の話し合いが、資料に基づく根拠のあるものになっていたか。海流や潮目などの情報を示したうえで話し合ったほうがよかったのではないかなどである。また、各漁港の水揚げ量の差異は、港の規模、水揚げの施設、加工場、物流拠点の有無などにより、単純に漁場との距離だけではないという指摘や、ホワイトボードを使つてのまとめについては、考えを練り上げるためのツールとして有効であり、グループの人数分のペンを用意し、聞きながら書くことで考えを深め合えるという意見も出された。



(2) 地元の歴史的事象の教材開発に関する地域巡検(9月)

巡検先 村松地区の寺院

五泉市村松地区は、堀氏5万石の城下町である。そのため、町名やかぎ型の道路などに今でもその面影を強く残している。中でも寺町は、通りの両側に藩主の菩提寺などの寺院が立ち並び、歴史を強く感じさせる町並みになっている。

中でも、正圓寺にある「五輪線刻塔婆」は、歴史的に興味深いものだった。これらは、鎌倉時代から南北朝時代を中心に建立されたもので、正圓寺には正安2年(1300)の塔婆を含め11基がまとまって保護されている。このように、村松地区に数多くの「五輪線刻塔婆」がある理由は、適当な石材が市内を流れる早出川で採取できるほかは、よくわかってはいない。



(3) 新潟県及び五泉地域の農業・農村の現状と課題についての研修会(10月)

講師 新潟県新潟地域振興局 新津農業振興部 普及課 石沢様

新潟県及び五泉地域の農業・農村の現状と課題について講義を受けた。本県農業は全国比較においても、高齢化が進行している。そのため、将来にわたり営農を継続していくためには、6次産業化、グリーンツーリズムなどの取り組みが必要なことや、組織経営体(農業法人)、認定農業者によって、持続可能な地域営農体制の確立や支援が必要であることがわかった。

3 成果と課題

今年度も、教師自身が地域に目を向け、もっと深く地域を知るということで、五泉村松地区の寺院、新潟県及び五泉地区の農業の現状と課題を知る研修を設定し、普段なかなか知りえない情報を数多く知ることができた。さらに、授業研究も行うことができた。5年生、6年生の社会科学習でも、地域の社会的・歴史的な事象を取り入れることが難しいこともあるが、まだまだ、知られていない地域の素材が数多くあることも分かった。また、これまで、各年度の研修で得た資料や撮影した画像は散逸することが多かった。そこで、今年度は撮りためた画像を記録媒体に保管し、来年度以降活用できるようにした。